

第8回プログラミング—シンポジウム報告集

正 誤 表

A 4. データ伝送と電子計算機システム

大泉充郎，高橋 理（東北大学）

頁	行 ↓(上から) ↑(下から)	誤	正
A-38	第1図	伝送線録	伝送線 <u>路</u>
A-38	↓ 8	中，小計算機	中，小 <u>型</u> 計算機
A-38	↑ 12	……持たせる，併し現実の	……持たせる， 併し現実の…… (注 改行)
A-38	↑ 7	協力により試用	協力によ <u>る</u> 試用
A-38	↑ 4	タイプライタ・テープ……	タイプライタ， <u>テ</u> ープ
A-39	↑ 4	片道伝のもの……	片道伝送のもの……
A-40	第4図		
A-41	↑ 6	管理プログラム	管理プログラム <u>に</u>

B 1-2 幻影数値解

宇野利雄，永坂秀子（日大理工）

頁	行	誤	正
B-10	↓ 13, 14, 18	r	r
B-10	↑ 4, 3	r	r
B-11	↓ 3, 5	r	r

B 1 - 3 常微分方程式の数値例

神 沼 靖 子(横浜国大・工)

頁	行	誤	正
B-13	↓ 8	example 2	example <u>3</u>
〃	↓ 20	いただければ幸……	いただければ
〃	表 1 R-K 0.01 の 5	… 998 <u>59</u>	… 998 <u>59</u>
〃	〃 11	… <u>0.468</u>	… <u>0.4668</u>
B-14	表 2 R-K 0.05 の 8	-1253 <u>08</u> …	-1253 <u>08</u> …
〃	表 4 の 1 列 9	15.0	<u>16.0</u>
〃	表 4 R-K 0.05 の 5	-0.256 <u>092</u> …	-0.256 <u>092</u> …
B-14	表 4 milne 0.1 の		
〃	3	-0.143 <u>133</u> …	-0.143 <u>133</u> …
〃	7	-0.25 <u>695</u> …	-0.25 <u>695</u> …
〃	11	-0.00 <u>29</u> …	-0.00 <u>29</u> …
〃	表 5 R-K 0.1 の 6	-0.05 <u>296</u> …	-0.05 <u>296</u> …
〃	milne 0.1 の 6	-0.053 <u>117</u> …	-0.053 <u>117</u> …

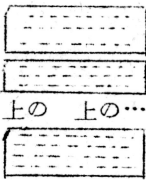
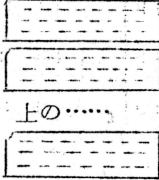
B 1 - 4 $\frac{dy}{dx} = -kxy$ に対する平滑子の適用について

林 健児, 東 農児 (東京理科大学)

頁	行	誤	正
B-16	↑ 3	$\frac{1}{16} \Delta^4 y_{n-2}$	$\frac{1}{16} \Delta^4 y_{n-2} + \frac{1}{2} \Delta^2 y_{n-1} + y_n$
B-16	↑ 2	$\eta_{2m} \approx \eta_{2m+1} \approx \frac{k^2}{4} x^2 h^2 e^{\frac{k}{2} x^2}$	$\left\{ \begin{array}{l} \eta_{2m} \approx \frac{k^2}{4} x^2 h^2 e^{\frac{k}{2} x^2} \\ \eta_{2m+1} \approx -\frac{k^2}{4} x^2 h^2 e^{\frac{k}{2} x^2} \end{array} \right.$
B-17	↑ 10	$\eta_{2m+1} = -(\alpha + \dots + (2m)! A^{2m} H^{2m})$	$\eta_{2m+1} = -(\alpha + \dots + (2m)! A^{2m} H^{2m})$
B-18	↓ 3	$\frac{1}{16} \Delta^4 y_{n-2}$	$\frac{1}{16} \Delta^4 y_{n-2} + \frac{1}{2} \Delta^2 y_{n-1} + y_n$
B-19	(表1)の(注) 1	〃	〃 〃 〃
B-19	(表1)の3列6行の左	4.6	3.8
B-19	(表1)の3列7行の左	6×10^{-5}	1×10^{-3}
B-19	(表1)の3列8行の左	3×10^{-5}	2×10^{-4}
B-19	(表1)の3列8行の右	5×10^{-4}	7×10^{-4}

B 1-6 常微分方程式の数値解法における難問対策へのある試み

森口繁一, 伊理正夫, 小林光夫(東京大学・工)

頁	行	誤	正
B-33	↑ 5	(2) T. V. Daries	(2) T. V. Davies
	↑ 2	(3) ZAMP vol.11, ...	(3) ZAMP, vol. 11, ...
B-36	第6図	$\text{DE223} \begin{cases} y' = 1 - \frac{y+z}{2} - x \frac{y-z}{2}, \\ y(0) = 2, \\ z' = 1 - \frac{y+z}{2} + x \frac{y-z}{2}, \\ z(0) = 0, \end{cases}$	$\text{DE223} \begin{cases} y' = 1 - \frac{y+z}{2} - x \frac{y-z}{2}, \\ y(0) = 2, \\ z' = 1 - \frac{y+z}{2} + x \frac{y-z}{2}, \\ z(0) = 0. \end{cases}$
B-60	1行目	HARp	HAR <u>P</u>
B-61	2行目	SID	<u>S</u> ID
//	↑ 2	図3 スケジュール((数字)) は図1に対応→.....	図3 スケジュール((数字)) は図1に対応. →.....
B-65			
B-66	↓10行	\$ID	\$ID

C 1-1 平方根の有理関数近似

二宮市三(名古屋大学・工)

頁	行	内容
C-2	↑ 1, 2, 3	CとSとをすべて小文字に直す
C-9	↓ 2	$\sqrt{0.11}$ を $\sqrt{0.1}$ に直す
C-9	↑ 8	1.37(-7) 0←この0を消す

C 1 - 2 代数方程式の解法及び誤差

平野 菅 保 (日本建設コンサルタント株式会社)

頁	行	誤	正
C-14	↑ 4	$\epsilon_i = \max_{\substack{k=1, 2, \dots, n \\ j=1, 2, \dots, n}} \dots$	$\epsilon_i = \max_{\substack{k=0, 1, \dots, n \\ j=1, 2, \dots, n}} \dots$
C-22	↑ 9	$D_i^{(0)} = \max_{j=1, 2, \dots, n}$	$D_i^{(0)} = \max_{j=1, 2, \dots, m}$
C-27	↑ 9	$\epsilon_j = \max_{j=0, 1, 2, \dots, n}$	$\epsilon_j = \max_{j=0, 1, 2, \dots, n}$
C-28	↓ 6	$\sum_{i=0}^n \frac{\bar{F}^{(i)}(x_{T_j})}{i!} (\pm \Delta y_{T_j})^i$	$\sum_{i=1}^n \frac{\bar{F}^{(i)}(x_{T_j})}{i!} (\pm \Delta y_{T_j})^i$

C 1 - 3 級数の逆転の一般式とそのプログラム

山内 二郎 (慶大・工)
戸田 英雄 (電試)

頁	行	誤	正
C-46	↑ 3	$\dots 6^{(1)} \left(\frac{a_2 a_5}{1!1!1!} + \frac{a_3 a_4}{1!1!1!} \right) \dots$	$\dots 6^{(1)} \left(\frac{a_2 a_4}{1!1!1!} + \frac{a_3 a_3}{2!2!} \right) \dots$
C-47	↓ 2	$\dots 10^{(3)} \left(\frac{a_2^3 a_4}{3!1!1!} - \frac{a_2^2 a_3^2}{2!2!} \right) \dots$	$\dots 10^{(3)} \left(\frac{a_2^2 a_4}{3!1!1!} + \frac{a_2^2 a_3^2}{2!2!} \right) \dots$

C 1 - 4 制御解析のプログラム

高田 勝 (九州大学・工)
田中 秀幸 (川崎製鉄)

頁	行	誤	正
C-58	第2図	N_p が $N_{1 \sim p}$ 中にあるか	N_p が $N_{\underline{p-1}}$ 中にあるか

C 2 - 5 OKITAC-5090Hによるタイムシェアリングシステムについて

牛島和夫, 有田五次郎, 大槻説乎, 久原由美子

(九大・中央計数施設)

頁	行	誤	正
C-115	↓ 11	ノ*著し	ノ*もし
C-127 ~128		BO×4	BOX4
C-128	↓ 5	2P+i	p2+i
C-129	↓ 21	2) 削除	2) 挿入
C-134	↓ 20	オブジェクトプログラム, 実行ルーチン	オブジェクトプログラムの実行にうつる. 実行ルーチン

本 PDF ファイルは 1967 年発行の「第 8 回プログラミング・シンポジウム報告集」をスキャンし、項目ごとに整理して、情報処理学会電子図書館「情報学広場」に掲載するものです。

この出版物は情報処理学会への著作権譲渡がなされていませんが、情報処理学会公式 Web サイトに、下記「過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について」を掲載し、権利者の検索をおこないました。そのうえで同意をいただいたもの、お申し出のなかったものを掲載しています。

https://www.ipsj.or.jp/topics/Past_reports.html

過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

情報処理学会発行の出版物著作権は平成 12 年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場 (=情報処理学会電子図書館) で公開されているにも拘らず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和 59 年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、この度学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者 (論文を執筆された故人の相続人) を探し出して利用許諾に関する同意を頂くことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思います。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止致します。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 (tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

期間：2020 年 12 月 18 日～2021 年 3 月 19 日

掲載日：2020 年 12 月 18 日

プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>